

環境影響評価、安全性審査も表示義務付けもない！

「GABA高蓄積トマト」うたう、 「ゲノム編集食品」をボイコットしよう!!

1 「ゲノム編集」技術応用食品は、安全性も環境影響も未確認

日本で初となる「遺伝子操作」(遺伝子改変)の一つ「ゲノム編集」技術応用食品として、「高GABAトマト」の届け出が2020年12月11日、厚労省の審議会(薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会・新開発食品調査部会遺伝子組換え食品等調査会)で、「非公開」で審議され、環境影響評価なし、安全性審査なし、表示の義務付けなしで、一般市場に出してよいことが承認された。



GABA高蓄積トマト
サナテックシード社ホームページより

その日のうちに、開発研究をした筑波大学江面浩教授と、同大学と連携して生産・発売主体となるベンチャー企業のサナテックシード株式会社(竹下達夫会長)は記者会見を行ない、一般に流通させて販売するにはまだ時間がかかるが、まずは家庭で栽培できる苗と肥料等のセットを希望者に分ける、「食べると血圧が下がるかどうか検証してもらいたい」と述べたという(共同通信、12月11日)。ずいぶん無責任な“人体実験”だ。

同社に対し、日本消費者連盟、遺伝子組み換え食品いらない!キャンペーンなど市民消費者団体と共同で日本有機農業研究会は「配付の中止を求める要望書」を送付した。遺伝子組換え問題を考える中部の会も、「ゲノム編集GABAトマトの市場流通に反対する! 厚生労働省は届出受理の根拠を明らかにせよ」とする共同声明への賛同者を募っている。各自が、「ゲノム編集高GABAトマトをボイコットしよう!」などのメッセージをできる方法で発信しましょう。

2 「ゲノム編集」で作った品種の「後代交配種」も「届け出なし」

タイミングを合わせるかのように、12月7日には、厚労省薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会新開発食品調査部会で、ゲノム編集品種の後代交配種(当初のものを親とすると、それに非ゲノム編集品種を掛け合わせて作った子孫)の取り扱いについて、「届け出を求めない」とする報告(11月27日、同遺伝子組換え食品等調査会の結論)が了承された。

ゲノム編集を含む「遺伝子操作」技術応用品種は、品種・種子の作出・生産過程で一度でも遺伝子操作技術を使えば後代交配種も「遺伝子操作」品種とする「プロセスベース」での取り扱いを、私たちは求めてきた。「届け出なし」では、まったくの野放しになる。種苗に「遺伝子操作」の有無の表示さえ難しくなり、作物からのトレース(遡っての追跡)もできなくなる。

ゲノム編集高GABAトマトや、高オレイン酸大豆などの商品化が始まろうとしている今、まだゲノム編集品種や食品が増えないうちに、「ゲノム編集食品」の禁止を求め、ボイコットしていきましょう。

(文責：久保田裕子)